

これらの要因が近年激減したために、霧日数も最大時の1/3以下にもなり、飯塚の自然の霧日数に近づいたと考えられる。もちろん、この場合でも盆地霧の発生しやすい条件はあまり変わっていないので、霧の多い地方であることには変わりがない。

謝辞 資料の収集に際しては、飯塚市役所建設部鉱害課・建設省九州地方建設局遠賀川工事事務所・飯塚測候所の方々および貝島重広氏（当時日本大学学生）の御協力を得た。厚く感謝する次第である。なお、この研究には文部省科研費（環境の破壊と保全に関する地理学的研究昭和46～48年度）の一部を使用した。

文献

土井仙吉, 1969: 筑豊炭田の衰退と産炭地域の振興。

地理, 14(2), 24-30.  
 福岡管区気象台, 1960: 福岡県の気象, p. 6.  
 Kraus, E., 1945: Climate made by man, Quart. J. Roy. Met. Soc., 71, 397-412.  
 牧園俊夫, 1958: 飯塚の霧と災害について, 天気, 5, 345-346.  
 Neiburger, M., 1967: Physical factors in precipitation processes and their influence on the effectiveness of cloud seeding, Proc. 5 th Berkeley Symp. Mathematical Statistics and Probability, 1965-1966. Vol. 5 (Weather modification), 1-27.  
 佐藤武雄・小川善明, 1956, 1957: 飯塚市で観測された煤煙について (1), (2), 天気, 4, 345-348; 5, 14-16.  
 山田三郎, 1961: 飯塚におけるばい煙・ちりの量と気象条件, 研究時報, 13, 472-478.

# 日本気象学会誌 気象集誌

第II輯 第52巻 第2号 1974年4月

瓜生道也・守田 治・野口晋孝・沢田 竜吉: 回転水槽中の熱輸送の測定…… 93-105  
 M.A. Estoque, C.S. Cheng: 熱帯波動擾乱の理論的研究 ……106-119  
 岩 嶋 樹 也: 大気中における超長波の解析的研究 (II) 第2部 成層圏突然昇温前後の超長波エネルギーの過程……120-142  
 J.H.E. Clark: 強制プラネタリー波の準共振的発達に対する大気の応答特性……143-163  
 近 藤 洋 輝: 積雲対流の発達の数値実験……164-174  
 D.N. Sikdar, R.S. Cram: SIRS からみた熱帯大西洋上部対流圏の等圧面温度と高度場……175-187  
 二 宮 洸 三: 1968年2月黒潮海域における小領域内の積雲対流の bulk 的特徴……188-203  
 K.D. Min, L.H. Horn: アジアと北アメリカ東岸にそう顕熱による有効位置エネルギー生成……204-217  
 E.C. Kung, J.B. Behrens: 高層風資料を用いて解析したサブシノプチック・スケールの乱れのエネルギー……218-229  
 A.S. Ramachandra Murty, Bh. V. Ramana Murty: セメント-transitory な氷晶核能力を持つ物質として……230-237  
 R.F. Griffiths, J. Latham: 氷の表面電気伝導度の新しい測定法 ……238-242

要 報 と 質 疑

近 藤 洋 輝: 積雲対流の発達の数値実験 (補) ……243-246  
 Chih-Pei Chang: 水平方向に伝播する熱帯の波動 ……247-249  
 二 宮 洸 三: はぼ定常的に移動した雷雨の周辺の中規模風速場の客観解析の一例……250-253  
 新 田 勅・S. Esbensen: BOMEX のデータを用いた西大西洋貿易風帯における日変化の解析……254-257  
 山 形 俊 男:  $\beta$ -面上の順圧不安定により生じた有限振幅うずの卓越スケールについて……258-260